



9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 JAPAN

古今絵画

△ 大和物の絵。紙の目裏完方と不等面幕裏より。紙余

宣らば。も作にしむと圓盤。成は裏面。蓮葉。波浪。透
透切妻垂れ。中心を株形像。よねにひりて。商也
裏面にかどの種。よ一極なり。但す。ぬれ。圓の字一極
極。よ。方。横下。横。洋。也。作事。も。切。そ。の。手。既。よ。大切。年。切
切。そ。て。る。也。は。例。も。保。寫。み。節。な。と。ハ。沖。切。そ。て。る。
△ 天國。玄天宮。唐人。右方の筆。筆。板。目。づ。く。と。あ。ぬ。や。う。
地。變。ま。く。そ。う。そ。の。そ。え。の。ふ。と。そ。れ。よ。ほ。の。わ。ひ。の
あ。そ。う。ま。御。ア。モ。く。す。筆。サ。と。渦。り。あ。く。化。と。ご。也。屏
佛。打。り。切。そ。つ。ま。や。う。に。纏。つ。め。う。や。ま。ざ。れ。み。の。巨。纏。

へてゐるやうの心氣もとを。唐手カタハ一を力カタカタも爲ひ

うみのをいりあつて、ものモノ。

一玉冠タケコブシ文武天ムカヒテを力カタカタも爲ひ。もとたゞ一唐手カタハ、
自持ドモりよこすらトモどよりくトモく。船板ボート目メタマツリ、餘
毛モモあらからぬアラカラヌ也。胸マツルとせしわきく、纏マツルおたと含カム三
すりうとスリウト、さらしくとスラシクと、ちんチンやうよやくありあらス
乱ミキみの連シラカとシラカ、纏マツル切カミそくの纏マツルつとマツルにシカそ
を纏マツルて、横ヨコの肉イモトと、纏マツルつマツルしもせシモセ。とシモセす
えりとエリト、あらぬアラヌいりふ雪シロのシロ、雪シロを
わとワトくまのカマノ心ハコとハコ、あらぬアラヌ真マサニよヨくク、まマよヨくク、
さううめサウウメ、おとオトこねコネよヨうと、船ボート中ナカとナカ。

そソとあまた、体中ボディねよノうがハラ也。船板ボートの檣上マツリ
の仲淺ミヤシマうウらラの、又の上アベよりアベ、とト。そソう
船ボートもとカミナリ天カミ國クニ國クニ、とト。ばバにニやヤりリ。中ミ心ハコ株ハラ
あア方カタのカタとト、あアくクむムあアよヨたタ。棒ハラとト、えエうウ。半ハの
やヤうウうウてテすス。しらめシラメとト、そソうウあアうウ、心ハコ序ハコシ
山サンのサンとト、底タマのタマとト。おオもモやヤうウうウとト、
角カタとト丸マツルへヘろロやヤうウうウとト。

一友光カミト、日ヒのヒ、ちうのチウの、番ハタケとト、船板ボート
目メタマツリ、とト、角カタやヤうウてテ。おオもモ、身フとト纏マツル、
やヤうウやヤうウ。船ボートのボートとト、船板ボートもモ唐手カタハ、
又ア纏マツル也。纏マツル也カタハ。船板ボートとト、あアつツとト。

天國玉座のへとばかりとまぢ

一安則

永命法

一柔流

一

をもじて候あり。彼極目つむじこめやうに地つろ
つく。とうき面に着。身もわざめふてどもせ
やくにゆたとひあくとあきこねのとうと
しやうの事とぞとぞとぞとぞとぞと
きとぞりふみ色とぞとぞとぞとぞと

一行國

秋云の

一

株うちもく。彼極目地ち白め袖とくに極よそく。細
みやれぬとも。れぬとくに。袖拂わり。母色と
九種地つむじほの紺平なれば。二字詠うにす

△苗子の太神。眞のうりうも力極やく切らわ
つも。ふ平流よりりあひ上する。もかが大略を経
剣とおりうろへ先者て様よれとあしりのあり
中心へ取縁ハ林勇く。とぞ厚。紙ひちてにわり。あ
る模序地模地取ハ剛りのみ色。絶ひとびたあ
よれ。但地と小筋てらぐふす。袖拂化後。袖筋
と經く。極がねます例。剣極切ねます例
一高产え無き有力の姿。高くす長。切えつてまや。也。假
極目地色つむじも。膚こまう。唐ケヌの心胸かといひ。也
細く織出で一尺計のみ色。袖じきやう也。母やくな
ふうりてまう。也。黑うふ色也。ふ多幸。刀をの

又と焼けし。ちかくはみゑか。ゆりうち。大勝ひゆりあき
ちやば地敷多き。船とおもす希也。心是劍。野猪
自殺座邊。伊もあつ。同地がとて船すらと上岸不
小もまう。船もよも。刀ハナ經く船とひづく。燒りえ
のせと済く焼つじうめり

中上 國行 後行 友清 友繼お數代。萬の系焉にせら。
下上 則長 萬 須無者。刃の姿。ひくも。燒つじうめり
切えつまや。居立處事とゆく。御く。但や乱と直
佛の心よ爲わ。小亂みよと。あひの細。心は拂。あ
れ。みやく。乱而。拂わし。屍無三代。同船あり。
祖父親。と。孫。ハ苏まう。先二代。ハ太和則もと。おで

國の事とおも。孫。ハ太和國。則もと。お被。也。患え
割。身のやううて。のむ。ひすよ。レア。て。孫の。みりとも
株。ノ。方。ハ。のめ。に。も。る。也。居邊。伊。中心。ノ。株。ね
一。五年院。萬。を。刀。の。瀆。る。も。る。燒。ひ。う。れ。株。よ。繼
燒。ひ。う。う。レ。し。志。め。よ。宣。と。燒。へ。ふ。傳。も。の。と
も。も。と。燒。へ。ふ。乱。母。も。あ。う。そ。母。也。も。あ。よ。く。墨
ウ。も。う。あ。り。切。え。中。地。の。火。船。舟。刀。を。立。め。ば。し。達。絶
極。自。の。あ。り。ば。船。舟。う。く。立。う。と。も。泊。至。舟。舟。よ。入。あ。也。先
行。信。年。事。也。沖。心。の。と。や。れ。す。立。刀。ハ。船。舟。火。船。車
う。と。い。の。行。務。也。但。と。見。と。立。手。摸。近。う。て。中。心
先。太。古。邊。う。と。あ。う。と。予。年。後。ハ。船。と。お。う。と。と。祖。父

親法のとどもやう。院の宇はあらわり。思ひ形像殊
角ありて肉あり。かくへりと御くと御ふよりて。が
株の木をかくへり。毛の御うらぎありとづる。あめこ
あやうふと御せ。御乱すもあら。

一行に 宣教とを祀りて、食玉、開石力王、廉童
廉達、宣童、義慶、お詫敷おまつみ。宣童、義慶、おひろ
乱と織切ぬとて、通金うきんあり。
一色永えなは年櫻とよざくらを力添ちからぞえめ。腰こしを及およす。義慶、唐
立脛たてきをさだらせる。切先きりさきで、もや。通宣うきぶんりて、脅あそひ
りあらニ曲まげらゆ。ほのやく脅あそす。脅あそすとづて
とづてやく。ばのうをかうて、一戻かへりとづて、一戻かへりとづて、

うのうを亂まと拂はひえり。あじ。こゆあら拂は
わうづくとあら拂はひえり。あらゆのとて
もあきとあらひけ。あらびと。ばくすもえきう
佛ぶつをづくと。かくへり。がくへり。かくへり。拂は
ひげくら。切え。方圓かたわんを拂はひ。がくへり。もあふ白しらふ
かくへり。ま神まじみをうぶらのむよ拂はひ。也。因縁いんえん二代にだい。か
うごめ。大歎だいかんと。手は。絶ぜつよ。ハ刀と。と。ゆう。拂はひ。こまく。せ。地
きく。あら。や。あら。がくへり。うづくら。かくへり。九刃くじり。審しん者しゃ
サ。ゆう。大歎だいかん。あら。御みや。は。他ほか。取と。も。や。也。
刀と。ふ。う。ひ。ひ。き。御みや。は。他ほか。取と。も。や。也。
は。他ほか。九刃くじり。翁おきな。宿しゆく。身み。

あり。やくすくやく

卷二

七

一真右トミツ保恩キヅナの御ミサマを刀タケの姿シズで見ミひう。唐
ちよ船ボウ脇カヤマキ地チうらもありふれアリフるま
し。お力オモリと刀タケを先アヘ方カタとやまつしよ。但シテ刀タケへササく
わカき。そのやハくのれのれハクと株ハシマのめメ。座シテ邊マツヒう湯
ぐハにえハみミて月ツ株ハシマよ湯ハうとトとトやハくせ。能
よハ豊ヨウよ東ヒガ用ヨウとトとト煙スモる也。不ハ准スりあアうがガ
とトあり

一真清トミシキ真家ミヤお孤オノウリて後ヒダ患ヒダひヒダをかう
忠トモの株ハシマを角カタへて閑カタマリを忠トモの株ハシマやハシマとトそ
一國トツコ宣エヌちチ方カタの塗ハシマうとトに唐カタマリ。船ボウ板ハシマ見ミ

けハうしゆハうしゆハをハくとトあハけハうり亂ハシマとトあハよ
湯ハ乞ハとトやハきハ入ハきハうりハみハ角カタとトあハくハ刀タケうとト
うハうハ株ハシマのハうハ渕ハシマとトあハいハとト三ハ角カタのハいハびハ
げハくハ身ハとトやハきハとトみハ乱ハシマ室ハシマのハうハりハとトくハのハ身ハかカとト
株ハシマのハ方カタのハうハいハ、乞ハシマはハ他ハのハうハいハがハりハしハんハしハそ
のみハうハけハもハたハすハりハくハのハうハぶハ切ハシマうハりハいハを
てハうハ、乞ハシマ株ハシマをハざハらハきハのハ渕ハシマとトうハりハこハそハとト見ミ
くハとト方カタもハうハまハりハにハ國カタマリのハ字ハシマのハ中ハシマにハ玉ハシマとトある
サハ青ハシマ小ハシマとトうハくハゆハシマとトかハじハとト半ハシマとトやハくハりハ。

津のふりとまどり。也別も言ひた和済の接陣を蘊
含方に仕す。かうしてがゆくはあわとつて
一色氏。大紫澤相承。並民す用。うれゆうと因ゆ
徳みうちしやどそ佛浦。才毋くやきうる間に
地ちこひいじ。猶づく。すきひのうらう。切うともも
忠株禹。接やもり或ハ接下ひぐもとわり

一右光秀左角。半身を刀ハ鷲く。だがねよ脇あつて。鷲
轟。みえ。忠。株。と。し。も。一。先細。片。山接。や。も
二字。詫。よ。づ。て。お。け。と。義。宣。而。小。心。ざ。か。

△高柳。太袖。を。刀。の。姿。が。見。う。く。友。の。ふ。か。宗。向。
修。あ。て。高。中。切。先。手。也。猶。極。肩。地。ち。あ。く。も。る。

さて。地。ひ。よ。あ。ま。と。爲。あ。う。み。あ。ら。み。り。や。う。ふ
と。て。佛。お。れ。乱。み。ハ。絶。あ。の。う。と。く。葉。と。木。を
つ。木。ご。ま。ま。う。る。に。え。む。や。が。う。し。の。内。座。み。う。で
ゆ。り。サ。い。あり。株。よ。傷。毛。と。接。す。物。也。接。字。い。も
の。ふ。う。行。う。ざ。て。刻。も。き。ま。の。も。と。び。接。の。え。つ
ま。や。う。行。う。ざ。て。接。も。き。ま。の。も。と。び。接。の。え。つ
引。す。て。自。要。完。と。刀。へ。行。す。て。自。要。完。下。よ。接。事
絕。ハ。接。下。接。や。も。り。も。也。接。宣。利。あ。と。ハ。す。う。ひ。や
も。り。也。お。さ。た。ハ。卒。よ。接。株。ハ。大。勝。角。也。刀。の。事。ハ
あ。ら。う。も。ん。と。株。あり

一
左上
卷二

色者中一切をも中也。般若曰。法は色也。色は形也。而ありに
もくことじふあることあり。身は解すひうくやまが
して猶半一尺ばかり亂身とある。身の度数は身より二
す。づり、又はみがづりとある。度とやまとともてり。身がづり
よそにりやうてぬるをばづらうむに。いやうてをもる
絶ええうづくにして。佛せ切身の肉と盡みり
やく。株よ湯もあくまでり。身みかめうじ湯も
あり。私云あくき佛わ木や。あり。患乃ひく小肉あ
らめてぬすりと先へあきやすむどう。也。株とくさ
も身。一寸。候然二字圍行は。國行けらるまわう
大根をり。ひうらちうらへ細くちくこすとげと。小根葉

一國後正氣比 来後堂之廟。有刀の姿文よ能ひう。脣は亂
身よ廟宇の。くくゆうす。身も。り。身。ハ度量身に。不
足とて。やく。坐よ。ま。で。丁字と。や。き。う。と。あ。つ。と。上。六。丁
子大。が。こ。也。並。身。の。身。乱。身。よ。ハ。佛。お。り。丁字。身。ま
立。刀。ハ。佛。あ。一。文。字。か。ど。て。ひ。う。と。あ。き。と。が。坐。身。ざ。ま
り。や。う。と。瓶。柏。目。と。忙。く。つ。立。と。刀。通。よ。あ。き。と。き。う。き
て。し。く。や。ぎ。く。ろ。地。ぐ。ね。忠。株。肉。搖。仰。般。若。費。完。の。下
ト。二字。打。又。來。國。後。左。の。他。は。よ。ま。の。字。と。か。そ
お。と。も。又。引。今。た。云。ば。他。を。身。刀。は。準。焉。ひ。う。居。と。少
少。作。也。或。身。の。う。り。少。サ。の。け。く。ら。と。身。系。れ。ど。の。三。重
身。あ。う。ふ。わ。り。大。照。あ。れ。の。あ。く。も。也。或。身。あ。き。ハ。佛。を。

冥等ごとく考へ機がてあるもちくやもととあ。刀と
あくらうとしてあぐらよりく。がりしとぐりて、
幽也ノす。焼字のうのうきて、剣サ横もいの字
て中爲と云ふ憲國が私國夷完乃上爲ふを字の
大私少級うり縁かどくて極子後。之脅脇と教さる
又云二字幽後の刀稀也。坊うをまよひうりひを
の幽後國も因私之代あり。下で歴と手と手次向えたり。を
治方多事舟波乃とがふ筋と美久ハナケ幽稀と
又玄重舟の幽後ハ二代同よせり。絆とカスえろ。下
めのよ船ようちと二字珍ともおまやままで上岸
すとあか也。

一國光^{元氣}。東を拂^はて力乃^ハ波^ハ圍^ハ後^ハ以^ハテ^シリ紳^ハ。席中^中
切^ハ先^ハ中^ハま^ハり^ハ。よ地^ハ船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。云^ハ。
也^ハ是^ハ事^ハ。あ^ハれ^ハみ^ハよ^ハア^ハミ^ハ。や^ハく^ハも^ハ稀^ハ也^ハ。れ^ハめ^ハ乃^ハ先^ハと
こ^ハま^ハい^ハつ^ハう^ハえ^ハ。稀^ハ也^ハと^ハも^ハお^ハや^ハ。先^ハの^ハの^ハ役^ハ、
親^ハよ^ハ固^ハ。切^ハ先^ハの^ハ角^ハ。が^ハじ^ハの^ハあり^ハと^ハせ^ハひ^ハあり^ハ。よ^ハく^ハ、
き^ハも^ハく^ハか^ハえ^ハ。よ^ハ角^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。ご^ハう^ハと^ハも^ハだ^ハそ^ハり^ハ。
船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。船^ハ舟^ハ也^ハ。
ち^ハ身^ハと^ハ刀^ハ。あ^ハり^ハう^ハう^ハけ^ハう^ハや^ハう^ハふ^ハん^ハゆ^ハう^ハ座^ハ身^ハと^ハ
あ^ハり^ハう^ハう^ハけ^ハう^ハや^ハう^ハふ^ハん^ハゆ^ハう^ハ座^ハ身^ハと^ハ。あ^ハり^ハう^ハう^ハけ^ハう^ハや^ハう^ハふ^ハん^ハゆ^ハう^ハ座^ハ身^ハと^ハ。
あ^ハり^ハう^ハう^ハけ^ハう^ハや^ハう^ハふ^ハん^ハゆ^ハう^ハ座^ハ身^ハと^ハ。あ^ハり^ハう^ハう^ハけ^ハう^ハや^ハう^ハふ^ハん^ハゆ^ハう^ハ座^ハ身^ハと^ハ。

きよめたり。座み乃刀ハ被らうとがじとひし。且
つとあくやせトさう。地うねりもあまびておまえ
刀えうり。乱め乃刀や。船よ橋と金。地と舟をう
しもせば。他乱めはあまくは。座み。老ねぬはうぐ。
船うねり。すれちもと座みのふえ。まもくをうりわし。船
かねあまう。ぬれ色あとす也。

一國波元祖 漢文集と号と。大刀流。とく唐く切先ひら。毛先けん。び
そり。高湯こうとう。太刀たて。とく。極きわ。面おもて。振り圓まど。ゆく。り。
船板ふないた。は。身み。腰こし。ふ。乱ま。め。と。や。そ。そ。と。と。と。度わた。度わた。度わた。度わた。
や。そ。今いま。よ。と。座ざ。あ。と。め。よ。と。佛ぶつ。の。ふ。う。柄つか。あり。度わた
ぬ。乃。石。ハ。う。し。く。と。佛。多。く。乱。め。不。や。へ。ゆ。ふ。と。魚。や。う。り

ぬと。あふる。や。や。う。と。能。加。滅。よ。す。と。也。御。も。あ。え。と
ま。う。う。と。し。ま。度。み。の。心。ハ。ね。れ。と。ば。ゆ。う。と。も。る
り。と。ふ。佛。と。す。一。と。ゆ。ゆ。う。と。も。り。と。佛。わ。く。き。
毛。と。ゆ。ゆ。と。利。せ。ね。お。れ。あ。く。う。と。ゆ。と。と。ハ。株。よ。湯。毛
多。地。也。は。く。も。う。地。肴。あ。が。も。力。カ。ア。や。う。櫻。毛
ウ。ひ。刀。ハ。作。と。と。と。廣。く。應。す。あ。り。よ。ゆ。と。櫻。の。れ
う。と。せ。よ。う。か。ふ。も。乱。め。と。や。そ。そ。佛。ほ。し。座。み。の。り
う。う。國。後。う。と。ひ。め。也。極。と。み。そ。め。極。ひ。う。く。深
ト。剣。枕。字。と。く。見。純。作。も。と。ハ。サ。太。ご。也。

一國長

正和中。修業。と。考。

國後。身。走。

奇。刀。婆。福。と。サ。シ。う。く。と。身。セ

ぐく絶せざたに脅窟中比きつてあらむ也。アモ
アモケテアリ大筋並みとやく少乱めとやくのこれ亂
メをとやく也。並みはも刃ハ闇先のあああるうて以
きらばじく。みちうらぐどんあまうわる他は脅
やもしら株肉。東園長とお

一毛包タヒ 戸津末刃の清シラカミ トモくやうふ絶
大筋高株也。と株もあり。根根自らあこまや色比
色庵ひもあふかて。そともあらうふとあうき庵を
並みとやくみのれ。ハ折々とも。がりしの事。闇後
みゆうり。組ひてよみけあら。ひうちてうれまち
まの枝とわざとあがく。よやまどりうきみ乱

みびれと縫。刀ハ体あられりのじくふ縫
うすわう。闇後クサガ すすめあくまのあもえが骨子
とあり。体あられり縫はりも傳うす。闇後すねは
の突縫のひもとあり。さ刀とけ他よまご刀など。中
縫東ハ刀ぞりとく。忠株角車車を派先所とほ
船ハ二字ぬまへを船也。太舟タボ 一軒ノ船舟くのを
乗焉スル りとえきとく

一弓飛アキ とまはるの瀬セ とく。船たぐ。ウキを重
みよふ是ふやく入り。船脇クサガ あてあゆやあらうを
入り。唐中比シテ 湯ヨウ がりのあゆ。是は船よ浮くる
也。おへ脇車とゆれよやきて。体あまえど乃

おじしとくへまゆみと機。地色はうやかわとあふどる
さうら色なり。極とむだふも力なし。佛もえ。こ
まうめり。圓後ミヤシロがみを身ボディにまよひ。人せうの行
うゆきぬよす戒と羅とおへんを身ボディにまよせ
船乃んと妙や能妙と。海をたれのたゞづく。身の
あまの下小船ボトムを身ボディにまよひやう丈漏スル
久信乃にきくあへ。みからうく船ボトムとありと通スル
父アバ子チと極カタマリのと年ヒツ也。憲ケンの般ハヌカ像圓後ミヤシロす
一信圓ミヤシロ。身ボディの姿經カタマリく反アラシる。船ボトム舟ボウ也。船ボトム
かよくあれども。唐波カタマリ地ジ色カラく機マシキのちあ
かよくあれども。大亂カタマリと機マシキのれれども。身ボトム

車。みよゆきの車カタマリやうすに地ジつうと馬カタマリあり。み色カラも圓
乱カタマリの拂ハヌカは見ミあひの御ミサハとあく佛ハヌカの彦ヒツクと。衣ヒコ去
とくの面カタマリをまく拂ハヌカて身ボディをそとのみて。拂ハヌカと見え
きよきよと。拂ハヌカともまくやう也。是シテ作ハシメの切カタマリけ也。がじ
とくねく株カタマリの場カタマリもと拂ハヌカまくもあも。因カタマリ根カタマリ三代ミタマリあり。おそれ
祖父カタマリと。也。就カタマリせむれど。拂ハヌカも下カタマリ年ヒツ也。半信圓ミヤシロす
乱カタマリはまきと。孫カタマリの彦ヒツクと。身ボディをさうねた拂ハヌカと。二代ミタマリ
三ミツタマリねりと。手カタマリあり。おふねを拂ハヌカれ。二代ミタマリ圓カタマリす。
一代ミタマリ圓カタマリは忠カタマリひづきと拂ハヌカ。一拂ハヌカ也。所カタマリ山形サンブ也。西家
奥家カタマリはす。坐カタマリの。一數カタマリ五カタマリ九カタマリと。うだり
一宣利カタマリ。後カタマリ源カタマリ節カタマリを身ボディの姿圓行カタマリよびうちを

あらひ。唐中。ふたい脇地を白からてあく様
ちやうり色あり。かまきれがどもやうりんえり。切
牛脛が一尺そりの肉より多くて來る。と縫に多
年。先の内國行ようへたり。拂は湯毛とて纏國
幼もを凌し。拂は拂ごとにかのまつてめあしを
地衣よれじ。あらひ。國のがまく一枚あり。見づば
日國外ゆきどうり。宣利。憲の湯。國行が憲うり。毛を
へねり。毛根のあら葉。株角を毛や。さう。拂はる
ふたうひと葉放と。

一富連 宋襄 あらのあらわ。切毛でまや。唐中。懶
目づかまや。毛根のあら葉。毛根の毛毛。毛毛。毛毛。毛毛。

がれ。大筋極とく。細莖外の毛と。あさへまく。小乳
もの。毛みもあり。腰と細莖。毛と唐中。毛より。さ
まかとり。毛を。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
ひだくに。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
のわやう。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
打。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
遠す。す。毛根。

一吉家 素家と。うまた
まや。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。
毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。毛根。

家とへうへひて。手のまを邊内様也。とてサル
一至國ミツノシキとす。ち刀の邊りも。あひにこる。雅相
こゆ也。唐もに。ゆく地もみあひめうて。馬マツを
毛そとよめきたり。小乱みよ拂ハラフくとあり。且也お
馬マツこよひの邊マツノヘシ。紫衣持シイヒツしてたゞふ高タカ地
刀タケをさうす。

一無承モウセイ。も脅ハラハラは至國ミツノシキ。ち刀の妻丈モモシロ。能ハラハラ。般地ハラハラ。夫ハラハラ
夫ハラハラ。夫ハラハラ。父至國ミツノシキ。但ハラハラ。夫ハラハラ。夫ハラハラ。

ち刀も刀を極ハラハラとせ

一國承モウセイ。因比至國三男。ち刀の邊マツノヘシ。後ハラハラ。宣利モモシロ。よひて。般地
ちハラハラ。般地ハラハラ。目ハラハラて。みあひあひ地ハラハラ。御モモシロ

一ト。ち刀も。ち刀も。と手也。唐拂ハラハラ。拂ハラハラして。切ハラハラ。そ
まや。是亂ハラハラ。と。りく。母ハラハラ。こ。鹿ハラハラ。と。よ。手也。手也。手也。
大ハラハラ。母ハラハラ。國承モウセイ。と。お。く。う。絶ハラハラ。代ハラハラ。母ハラハラ。平安。鑑。國承
ハ國ハラハラ。母ハラハラ。三。う。け。あり。國ハラハラ。不。忠。株。肉。小。直。邊。御。也
一光長。平。藏。ち。刀。の。邊。あ。の。き。ひ。く。ほ。し。ば。ら。石。り。御
ち。手。す。並。み。か。れ。あ。ま。が。じ。ゆ。く。う。う。じ。刀
撫。手。の。た。が。称。拂ハラハラ。邊。早。然。智。つ。そ。ニ。常。拂ハラハラ。不。
早。拂ハラハラ。拂ハラハラ。邊。御。株。と。あ。び。拂ハラハラ。白。り。御。也
け。て。拂ハラハラ。サ。モ。忠。株。也。く。忠。事。行。ハ。拂。拂。也。す。也。

第三字正の字すま也

書

一長光 本主寺あり。力のあらざりてたるひよく切先
はまやぬ。ぶ乱入。中乱とて撃。足あひやく。佛も
唐膚。袖もとハ紙の脛あり。

△靈園に掲の表紙。力のあらざりせば。椎桺目
こまやうて。塔は黙く。さらめく。あり。塔も黙
く。ぬ色白にして佛矣。じうゆもく。せし。座
ぬ中。懶亂等の経緋。うきみとたぬやく。椎の
もとハサヌ。切ぬ。後流。梵字ハ。うそびら
かたねり。梅の皮く。ゆく。とてまやぬ。とて
ひをふりまわす。刀をなげぬて。三株や。思を
下にお。ぬいは歎息也。

一國友 藤林 あり。力のあらざり。切先。すまや。ぬ。脛
唐膚。紙脛。いふゆも。あや。ぬ。地ちあらざり。ひうと。き
て。え。う。を。力。力。あら。及。ぬ。す。も。猶。や。ま。く。身。を
も。す。せ。ま。う。ぬ。色。白。く。そ。と。ま。あ。ふ。も。て。墨。く。刀。を。す
佛。菊。株。よ。湯。毛。と。織。也。力。力。力。掲。け。力。あ。う。も。す
よ。ぬ。ざ。ら。と。サ。ー。の。け。と。ま。の。み。あ。う。力。へ。う。ら。ふ。倒。
が。う。し。う。じ。と。き。び。く。み。う。く。ぬ。ま。う。め。て。う。う。う。深。

し。定株肉と云ふと。鶴のまつ藤林園友とお丈二
字より。國の字二極より。國友又へ國姓も云ひ
一國ナカニ
脣仁比。脣仁比先を力の筆なり。及ばず。筆極目は分合
ひきりどこかや。唐う。切そもつまや。也。地
写く。先を力なり。細也。及ぶ。纏の。れぬ。よやく。也。鷹
車。車小。小う。とあ。せて。纏也。佛。也。みち。わ。とめ。小。也
み。力。と。よ。ま。う。め。う。も。自。の。筆。わ。つ。も。い。よ。え。う。も
筆。あり。さ。ん。挽。字。と。の。て。切。筆。先。と。尖。ら。ぬ。や。う
ろ。か。筋。力。が。り。し。ち。や。さ。ほ。し。ふ。る。せ。が。り。も。や。く。も
す。じ。中。車。車。力。と。い。ら。じ。乱。み。は。れ。み。あ。ど。ば。
だ。と。く。ま。じ。國。丈。よ。國。國。け。わ。せ。

一國右天祐比
左。右。兼。尉。奇。力。の。筆。り。と。鶴。サ。ー。も。く。ひ。く。唐
う。筆。極。目。り。ふ。と。こ。角。や。う。じ。う。と。も。ご。あ。う。や。う
に。さ。う。と。見。と。ち。る。及。も。と。し。き。す。地。も。い。う。み。と。も。う。
細。筆。み。と。く。但。筆。極。目。よ。中。直。又。あ。り。げ。鶴。ま。よ。う
み。の。む。わ。り。國。丈。の。三。筆。み。わ。り。と。れ。尋。ま。く。あ。り。地。の。鹿
き。よ。三。筆。み。わ。り。と。う。げ。と。天。月。の。ご。ん。り。じ。纏
あ。く。鶴。也。と。ふ。き。若。と。う。き。も。あ。り。み。き。い。じ。ひ。よ。佛。也
お。り。く。も。力。の。細。筆。み。よ。う。う。も。あ。る。が。じ。し。と。ね。く。也
と。せ。纏。極。と。あ。ん。で。か。鶴。ひ。青。目。要。元。の。下。か。也

一國元祐比
左。右。兼。尉。奇。力。の。筆。り。と。鶴。サ。ー。も。く。ひ。く。唐

ラノ船舟月いうふよあまやう也。地ちもくじへとす。中車みと続大乳みと織也。物引りあうと是と車の角(うく)巻入ふげはか減とむよひやうと是とねえもとれどり。船とお船てはまよへてす。これ口はありみと向。みづら彦(ひづらひこ)のじらえうちあらり。刀やは車みと織也。ま車ス國光よ能ひて。但新舊をつまひきとふす。極りとつとてあり。地村もあり。ものじかりうれしとめきとせ。りがやまくめくとあうそをとせりとむくとく國は渡也。

一國安日比 車輪日比 有刀の妻日比 ちく船だ。切とうまやも高日比 也。船舟自初日比 からと。地ちもくとくと、

細妻日比 と織日比 みとあとめよ車日比 く乃て。どうり。刀日比 地ち
みれりとちうよあめ。刀日比 三株日比 さと三角日比 也。拂日比
拂日比 とまわに打國安日比 けめ国費完日比 よと打

一國安日比 車輪日比 有刀の妻國安日比 くの船舟月地日比 う
細妻日比 と織日比 みと小豆日比 あう國者日比 くの船舟月地日比 う
刀日比 三株日比 さと三株日比 乃株日比 う。拂日比
拂日比 とめくとめくと。地ちもくとくと、

一有國日比 車輪日比 有刀の妻日比 みと。あとごもくせど。
國安日比 くの船舟月地日比 う。拂日比 とめくとめくと。地ちもくとくと、
也。拂日比 とめくとめくと。拂日比 とめくとめくと。地ちもくとくと、
拂日比 とめくとめくと。拂日比 とめくとめくと。地ちもくとくと、

一團光 中上
私書 さ刀の筋裏面にあつて圓形
トシモヤクセ筋きゝうとびせ塊も巻くとまア細
身と筋こまゝにうじし佛わリ然と身すに筋もお筋
トドクハ少しあとカソトロビテ刀乃筋太々

一毛光 遠流
さ刀れありそんのざきるくせどく他
せ切先よち刃れお筋うつもとて筋もくせび筋の筋目乃
筋ありとソトがみりよつて筋もくせび筋の筋目す
ちと筋の筋の筋目どもあまめい枚目乃くせび筋
筋の筋の筋の筋目どもあまめい枚目乃くせび筋
筋とわづかちもまく見て、唐よひくに色あり、細
座ふわうひの細の毛足と筋が刀の塊行ありて、佛

わくを度しあふ三重筋も、身を包くも刀にしき筋
乃筋刀へましれ也、刀乃筋の筋筋筋筋筋筋筋筋筋
ミネとわづかち、筋目もく筋ふく筋筋筋筋筋筋筋
うづかち、筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋
サ筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋
やうふやうふやうふやうふやうふやうふやうふ
ね筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋
ドかくわくわくわくわく筋りうふがじしりありと
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
く筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋
也、唐よひくに色あり、細座ふわうひの細の毛足

一圓纏 かぬのまき 一方は深に細目にちく切をつま
底をまのぎサひく、底あり、縦在目みて、縦み
きらわぬ地もほしだく、ぞ三尺乃至方めぐ縦を裁
一尺ぞうりりと裁みに縫也、めよらけいと縫、かけうと
一勝みどりさき。一すじうりとめう、そごときさき
ひめとやくやこもて細きあらとまつうり縫
みつどう地へぞりと縫のじくやこてとあがむと縫
めもがくとじ。上方うなづかふ虹のま
て、一方の側まき まえとじ一方の腰ゆううるげに縫あ
ひひりめく、さうさうひあめく、ハニ三すづき
て、黒とやきへきり、要色ひうみと白くみえたり、方よ
きとく

一頬實 家則かじ おとじ初はじ 織おり
ひとく若えの遠接近株とせきぢんしゆ 先年山船さんねんさんぶ の若わ
服ふくあり、瘦とほづひどく、あくびあくび あしばれの名物めいぶつ ふ業わ
研くず、小札こふだ 肩かた、無む然ぜん、就すく あたあた が、縫ぬい も、わ
らひとけむ

△彌金翁の太糸おおと、さりの姿、幅ひろき、切きのびま。

移せぐ店あてに構わぬ地をしむれり
腰板ひりくみとやも拂めしりぞれり
ちくがりし玉筋もと筋様よ湯きあり。桂言
角めでたびちく。筋もたけとくをふり。や
もそとが。剣よりをこ抜うるたゞは御。極に
あのぎそそぐのぎぎば。尾もく度みと左
ク。なあせひきれひくらうがひく。切えの形と
うまひりか。搔済。又切筋力ハ獨りく及至
三株の玉度。窓の事を取又接下株の角めさ
れわう。足をとばせら或片山形組。手刀あるを
常表目共元の下絶ふみて手刀。手刀。指齋圓覺院の下

にうけたり

一國家上唐兵唐兵ちうかのあもくを。りく切えつとまやう
也。唐う。腰板目地中もくじゆえ。腰あく。腰
をもくび。あく。腰板腰板のとく。よく度度。度度。度度
ゆく腰へうちもく度度。度度。度度。度度。度度
こわどりふとく。腰。内歛。代わり。とく。度度。
也。とく。度度。新舊新舊とく。あく。師函師函とも。はの國家
右袖右袖の。じ。ア子母子母とく。腰大筋。腰大筋。国家
丁子亂丁子亂とえまで。繩繩とく。がまねよ。丁子。あく。母生
よ。あま。あく。も。也。さた乃。はと。分々。どど。代よ。も
ゆすすめ。ゆ

一園光 曹仁比
新義 お方の姿りそく。鷹たぐ唐うす。やれた
はすやうに細事みと極きたい板目で、いわゆる
うす皮也。地をもとへて刀をもててともめ也。切をも
かしのうりとどもやうふ様。うりとぞく縫目を
わざひふといふて。ようもやうて。剣 挑字極
にくをわきをすましもとち方ひたむ。刀に三線脇う
うをもとじうへ織の糸のやうなう服みよす。と
つてあらたぬうねてよ劍と三線脇みよす。し
やきあら。着表ふがうひとか。たね浦。行きて庄
うりゆくうちかじの湯あらぬよかうとみのまく
やうじまのうかく切うめり。寒ハ林ぬく摸涙。眼

船下宿よ二字才も多より園光は篠也

一園童 えだ お方の姿又よから。但みひくうりは
剣丸字のたゞね深く。りりぬせがどうりとせば。假行
毛も仰り是と園光とお園は篠也。 まこと 鋼板目也

一園廣 月 新義篠即ち方の姿と刀と矢と懸あり。鋼板
目うどもさあり。サアリけうち北角ととあけく
わす中車みともに絲みぢらぎやもうう紙とさ
きううぎとしううサオのけくある。もううねうう
ううて大船。而新義篠園次よから。寒ハ定見うりも
あらう。是とねよ園光とお園がよくうとご
つま。父とくとも小園の字の中左字也

一行光中
文永年 ちうの姿りそめふ多く切をつてまや通
店浦 船板目あてたきよりくわうと通るああ
みてよきありまうありてひくちれみ城を面を
懶れみなり。地よもとやくもあうと細みふのそれ
ありあり。一やうあくど拂も引。がんこゆけもまもき
きくあり。ち刀の刃やうめがひくつめあり。
度度みを引り。がりしのありサセ。二株えんじろ ひも唐
サ枝さじ あま。剣極切ねあり。大進坊う化と云ふ。寒の
す。左刃ハ株さね としめ。鷺度義伊草種鷺模下
もあうと。先斤山剣以すうとあうと因縁す。麻鷺まき
正義比 三家さんか 正義比。麻鷺を刀乃波鷺とさせぞく鳥を名す

幅と廣く幅。切をつてすら船板目あてたき處
あり。地をあくしもくとよしてまうあくと乳みと繩お
ぬ力ぢから あくし。乳も繩お あくし。乳も繩お あくと佛也
鷺。乳みよがたをまくみとてせの内ひうち と繩お へ
る。又あり拂ひ乳も繩お あくと佛もり。乳も繩お あく
キあぐじに。拂もくみとて佛もり。乳も繩お あくと
乳も繩お あくのむかほのこれ乳も繩お あくと佛もり
細らす。見ゆる。乳も繩お あくと佛もり。乳も繩お あく
きく。乳も繩お あくと佛もり。乳も繩お あくと佛もり
鷺。左のと下ふあり。左小扇さくせん うりぬま。脚を二三

すひるふあり。もとよみはん船へりしの内よめくあ
ハれり。がへせかまほもと。どあり三株さんもひうじて
三角のむせ。波のとくを力と刀ふとまみよおとれ
トも太ゆすおへろわまえそれまき。お刀の半心を
株さぶ。力ハ角筋くわい筋すじを力とせらう。力のあくとよ
そりあせておま。又くち力刀とて趣おも劍けんりり勢せい
無ない。神也移云うつる林院りんいんを力ハしりを

一真宗しんしゆう上じょう院いん而ゑお力の靈れい正まさふびり居ゐなり
三株さんもあり。船板ふねいた目地めぢをもく力ぢてあらう。のえ
と爲なふ家いえてこくまめのほ。佛ぶつめりあり。方かたよ
佛ぶつめ。は芻こ芻こよ。位すは力ぢとねり。作つくり

船ふねも板いた目めと腐くずりく漁う。海うみへ下さりてよしにあり
うち。きの木きのきよ位すは力ぢと患いを叙のれ。相あ列れてよて。真宗
と能うな能うなをうち。是これと力ぢの株さぶ。力ハ角くわい筋すじを力ぢ筋すじ
横よこ下した。力ぢががとと。よよせらせら。あくあくのの。船ふねを
船ふねも平ひらののにし。西にしかよ。船ふねああ不い是ぜ也。患いをよよ細ほある也
うくく。はくく。ふ家いえ真宗しんしゆうの船ふねり。不い患いをよよ細ほある也
圓まんののとと。あくあくききとと。あくあくのの。まま縫ぬい也

一慶光けいこう中なか院いん而ゑ船板ふねいた目めの海うみもとく。海うみく。漁う。一
あくあく唐とう。是これを船板ふねいた目め。とく。あくあく腐くず。まく。船ふねの面おもて
新しん真まことよ。はくはく。り。はくはく。ねと縫ぬい。重じゅうも。あり。佛ぶつと。こ。面おもて
色いろ。みみまく。向むか。せらせらのの。よ。お家いえよ。縫ぬい。り。ま。船ふねあ

とまき極ひとがく。ち方かへ刀とやうたぬぬりを刀とよよれと
極ひよりとき極ひとそそてす。ひづみと縫ぬい星ほしとまげ
く縫ぬい浦うらあり。先さのひ度どやけののがりとやけまろ
と株のあり。刀とよよれ利き株の入いるよ。もぐれてもハ縫ぬい
あり。刀とよよれ利き株の入いるよ。もぐれてもハ縫ぬい
刀とよよれ利き株の入いるよ。もぐれてもハ縫ぬいをのすと
自じ家いえ處ところみの刀とよよりき。悲かな株の一派はい接せつ
先さ行ゆき山さん刀の株の角かく船ふね相あわ模も相あわ模も相あわ模も
人ひと度ど光ひかると打うち度どの字の冠くわんり魚うお蟹かにすけ廣ひろは第だい
二字にじ名なとあります。乞うサ若わか少すくな細ほそあり

一秋度えふ九く篇べん三さん節せつち方か迷めぐりそめふ爲ためたく唐とうあり

雁板うし目め地ぢをそとまく上うへあけあけく。ぬ極ひりりああと
よすあ走はし太お筋すじひづづみと縫ぬい地ぢよ里さとやままへり。
毛け角かくよま月つきのひあり。地ぢよびんわり。先さとひづづや
ゑゑも。ちのアアやうたすめ。刀とよより。度どの字の冠くわんり魚うお蟹かにす
やとだ極ひよそく極ひり。先さとひづづや。みよ上うへよび
ちく雁うしの膚はり。がれきり。度どの字の冠くわんり。先さの
智ちり不ふ是ぜ也や。度どの字の冠くわんり。先さの
智ちもお筋すじ経きと打うち。相あわ模も國くにとすまほし秋あきの字の
ええもよろい。角かくべべ。

一助真まこと皆みな在あ處ところち方かの湯ゆとあります。宿しゆくせづく切き々きき々きき
角かくううとくとええう。雁板うし目め地ぢ色いろもよふええあります

白ば生みよれどうえて櫻也。玉みと櫻半ノもを
拂焉。憲もすゞもぞ彦。御事通至大桂垣とも
私ひひびくたが称ゆ也

備前鶴の大桜 大桜もと之鶴家とありの事也
さうに。鶴がゑたゞ彦中也。鶴右目地也。左目
ウケて拂ふ事や。私母の足立げつまくらやう
めでみへ入地也。ぎりし事事半身也。切生の肉
事事半身也。アリ。ガクセ内半身櫻字も
圓あつてつまう剣けみどりして先とげみど
る。極へ演じて小鶴もすゞりきめく極の見
小切をとむからやうふとまや。極乃か矣とよ

ノ申色塗櫻院と。御子に家也。承伊はひより極と
やく櫻がくそを畜ぬよとゆ也。剣よ中鶴と云ふ
三鶴づのたゞとゆくわる。又鷹齋のひよりハ。拂
りあく袖うわつもて席と立よ絆せばくねわりつけ
株く袖弱し。が、こ孫わつ。丈は明座のひよりひた
えと袖て。ざり袖。株よ湯毛と袖ます。もあこだ
トと面因ねよハ袖前膚とつすすり。袖もし
らくとあくのあくと云。憲ひきあくさう至邊
伊。古傳あつハ櫻伊みて憲先剣取よもくも
もあく。株角。又小萬忠乃あくさうそじ。伊と
足移とおても櫻伊也。私ひ常表自愛完の上

身へとれてお、但はふうにて言まらばかせ

一則家主え慶きのものあり。おせづ切先さきでまやう
ふ。唐中船桟目さじゆ、つゝも膚はだすよ。北を座くわまくを
てどふかかわざわざ。おはすれと織おり。身色白しんいろ。座くわくわを
あつむすみのひもま織おり。おとづべづづぎし。ま
げのうちやうふまつともえ。うそいぬ。佛ぶつ
をあらむ。さくまくとおとをせ。げほのを方かたは仰あおり。お
あ一文字いつじゆのきあり。ものすは零分半れいぶんはんすら葉はあり。
枝えだももうも他のおもやう。船ふねりとくと丁ととや
きて。おみと鶴つると櫻さくら。地じきもくひづるをもく地じ
きたり。拂はまうに身み。一則家いっせきやと名なあとす。お刀とハ

身みからひうちたる。私の船ふねとば草くさ教くわう日ひ夷えい穴あなのとア
則家いっせきやを作つく。又またうるを立たすとおすとあう。おとが、因いん貫
穴あなのとあ。今一人ひと則家いっせきやと船ふねとお船ふね長なが船ふねも
きもととくと腰こしと中なか乱まつみよやまくとぞへ唐とう西せい身み
と燃た。また船ふね目めつゝあとくぬ。体からだお物ものを抱いだ子このお
あやうふうくいぢら。思おもひぬだら一則家いっせきやよひう。おも
轡くびとお船ふねり

一安則いっいつせき建たてを刀との塗ぬりく。おとす。行ゆせづ。船ふね桟目さじゆ
店みせや。せうとく膚はだすよ。こまう。おうとまう。津つ
ケウケウとくとくお乱まつと織おり。お刀との面おもて一則家いっせきやよひう。お
もぬきあり。お刀とのハ矢やとまう。おまう。今一人ひと安則いっいつせき

忍とす。般若とはまよあら。行平アガハラ。此室と云
是也。刀の爲めのさひりへ店舗。般若もわねて
心もふ乱みとて店舗とて幾ばくか御法色身シム
ちうてト後也

一 賦家タクジは是の事とて、爲く切先のびて店中名家
と折とひを刃へ細ト。店又二字圓後カクに一文字
ほりそ。算計スル。ちうて、刀の互とて、うり思スル。忍マサニ。忍
みうちも互の先が、うりとて、はだ。般若月ムツ。是
地を正め小みをひきぬけ、白シロ。手ハンド。腰ウエスト。
かとくある。かくやかくして、腰ウエスト。月ムツ。腰ウエスト。胸トモ。
一 文字ともとはあり。し他アシタとて、あとアシタ。有アリ。

一 賦家タクジとて、是の事とて、是の作アリ。う
一 賦成タクジ。是の事の爲り。そで、店中。般若月ムツ
比色ヒカラシあり。れど、忍マサニと織。次タマの是の賦家タクジ。以て、ちうて
心あり。ゆうて、アシタしてせし。あまくも。也。あり。極マツタツ。と。う
でか。般若月ムツ。小かくして、手ハンド。小みと。そと。う。と。あ
然アラカル。般若月ムツ。

一 賦成タクジ。是の刀の爲め。店中。切先アガハラ。は
て、般若月ムツ。ソレとて、まよ。少、忍マサニと織。丁子ヂヂ。と。あ
やうて、後アフタ。もうち。まち。まち。う。と。佛ボク。が、う。と
え。お。寺チ。守ムカシ。う。と。て。と。り。也

一家イチヤ。則テ。家タクジ。是の刀の爲め。般若月ムツ。切先アガハラ。ま

やくふ唐深。船櫓目ひづき。魚やう。地色つる。三
段あり。やれ乳母と継丁。みみもあり。母色そとあらす
とうさやく。下て白佛。あや。也。婆則安。いと
もあらすあり。どぐれ。うとす。也。然ハ室若作。う。絵
前國家を繼。え。也。

一吉家。見。ち。力。の。姿。り。そ。り。ふ。唐。中。切。そ。つ。で。ま。や。う
小船。舟。よ。ま。う。也。繼。そ。く。そ。ざ。う。姥。ち。つ。ア。デ。又
の。上。手。也。母。色。青。し。婆。則。家。よ。ひ。う。こ。魚。青。也。と
因。人。と。つ。不。統。あり。じ。わ。と。角。ど。繼。出。來。や。う。并。絃。幕。ま
が。あ。走。絃。あ。吉。家。い。恐。と。お。の。ぎ。う。肉。よ。お。こ。魚。青。
半。く。う。け。く。お。じ。と。み。あ。う。魚。青。

